

## 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 ( 映像音響学科 )

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	舞台機構調整 I		英文名	Stage Structure I				1-1
担当者	渡辺 悟		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 講義
開講期	通年	前期： 4 時間 (回数：15 回)	後期： 4 時間 (回数：15 回)	授業時数	120 時間			
教材 教具	舞台機構調整技能検定3級(2級)試験問題集、プリント							
担当者の 実務経験	音響及びホール管理							
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい (目的) 「舞台機構調整技能士検定」に向けた音響理論を基礎から学ぶ。また「要素試験 (ヒヤリング)」の対策として、楽器音の聞き分け、音質の違いの聞き分け、ミックスバランスの違いの聞き分け等の訓練を行う。年度終了時には舞台機構技能士二級レベルの知識を身につける。								
<b>【授業計画】</b> コマシラバス (前期)				<b>コマシラバス (後期)</b>				
1	舞台機構調整技能士試験の概要 技能検定の意義と取り組みについて 4/13 判断：楽器の種類とグループについて			1	舞台機構調整技能士二級試験の概要 取り組みについて 10/5 判断：楽器判別①			
2	令和3年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 4/20 判断：金管楽器の仕組みと音について			2	平成30年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 10/12 判断：楽器判別②			
3	令和2年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 4/27 判断：木管楽器の仕組みと音について			3	平成29年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 10/19 判断：楽器判別③民族楽器等も含めより幅広く知る。			
4	平成31年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 5/11 判断：擦弦楽器の仕組みと音について			4	平成28年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 10/26 判断：周波数の違いを聞き分ける。			
5	平成30年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 5/18 判断：鍵盤楽器の仕組みと音について			5	平成27年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 11/2 判断：バレエやミュージカル等の曲を聞き分ける。			
6	平成29年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 5/25 判断：打楽器の仕組みと音について			6	平成26年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 11/9 判断：音質の変化を聞き分ける①			
7	平成28・27年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 6/1 判断：和楽器の種類と音について			7	平成25年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 11/16 判断：音質の変化を聞き分ける②			
8	平成26・25年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 6/8 判断：音量の違いと感覚について①			8	平成24年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 11/30 判断：過去の問題から模擬。音響の基礎知識についてより深く学ぶ。③			
9	平成24・23年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 6/15 判断：音量の違いと感覚について②			9	平成23年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 12/7 判断：音質の変化を聞き分ける③			
10	平成22・21年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 6/22 判断：音質の違いと感覚について①			10	平成22年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 12/14 判断：音質の変化を聞き分ける④			
11	平成20・19年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 6/29 判断：音質の違いと感覚について②、前期 復習			11	平成21年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 12/21 判断：過去の問題から模擬			
12	平成18・17年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 7/6 判断：音質の違いについて③低音・中音・高音			12	平成20年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 1/11 判断：特に重要項目である楽器判別と音質についてさらに訓練する。			
13	令和3年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 7/13 判断：音質の違いについて④歪み・ピッチの変化など			13	平成19年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 1/18 判断：過去問に沿った模擬			
14	令和2年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 9/7 判断：ヒヤリングの模擬試験の実施			14	平成18年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 1/25 判断：過去問に沿った模擬			
15	令和元年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 9/14			15	関係法令や安全衛生について学ぶ。2/1			
<b>授業方法</b> (授業の進め方)		授業は講義形式で行う。要素に関しては音と映像の流せる環境において行う。実際に音を聞きながら、判別できる能力をもてるように、繰り返し問題を解いていく。						
<b>到達目標</b>		前期は3級合格、後期は2級合格レベルとする。また舞台・音響・照明の現場で活用できる基礎知識を身につける。						
<b>成績評価の方法と基準</b>		・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
<b>授業時間以外に必要な学修</b>		「判断等試験 (ヒヤリング)」においては日ごろから如何にいろいろな音を聞いているのかが理解に大きく関わるのでいろいろなジャンルの曲を聞いて欲しい。						
<b>履修に当たっての留意点</b>		3級不合格となった学生は2級の受験資格がないが、2級合格に向けて、受験者と同じ内容を学ぶ。						

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	電気理論		英文名	Electrical Theory				1-2
担当者	秋山 俊朗		実務経験の有無	有	選択必修	必須	科目区分	専門科目 講義
開講期	通年	前期：8時間(回数：15回)		後期：時間(回数：回)			授業時数	120時間
教材 教具	ポイントスタディ方式による第二種電気工事士筆記試験受験テキスト、第二種電気工事士筆記試験模範解答集、第二種電気工事士技能試験候補問題の解説							
担当者の実務 経験	電設資材卸販売会社(営業)3年5ヶ月、電気工事会社(施工及び施工管理)3年7ヶ月 県立工業高等学校(電気科教諭)33年							
【学修内容】科目のねらい(目的) 第二種電気工事士の筆記試験と技能試験に合格する為に必要な基礎知識を習得する。								
【授業計画】 コマシラバス(前期)					コマシラバス(後期)			
1	〔電気理論〕オームの法則、電気抵抗の計算、抵抗の分流と分圧(4/13・18)			1				
2	〔電気理論〕単相交流回路、位相差と力率、電力の計算、三相交流回路(4/20・25)			2				
3	〔配電理論〕配電方式、配電線の電圧降下、分岐回路の施設(4/27・5/9)			3				
4	〔配線設計〕需要と負荷、電線の許容電流、過電流遮断器、分岐回路(5/11・16)			4				
5	〔電気機器〕三相誘導電動機、変圧器と計器用変成器、照明器具とスイッチ(5/18・23)			5				
6	〔配線材料〕開閉器・点滅器・接統器、絶縁電線、ケーブル・コード(5/25・30)			6				
7	〔工具・材料〕電気工事用工具、金属管・合成樹脂管・PF管工事用材料(6/1・6)			7				
8	〔前期中間試験〕(6/8)、〔施工法〕施設場所と工事種別、電線の接続法(6/8・13)			8				
9	〔検査〕検査方法、絶縁抵抗・接地抵抗・電力・力率の測定(6/15・20)			9				
10	〔法令〕電気工事士法、電気事業法、電気設備技術基準、電気用品安全法(6/22・27)			10				
11	〔配線図〕屋内配線図記号、単線図と複線図、材料等選別(6/29・7/4)			11				
12	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説(7/6・11)			12				
13	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説(7/13・9/5)			13				
14	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説(9/7・12)			14				
15	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説(9/14・19)			15				
授業方法 (授業の進め方)	第二種電気工事士筆記試験の受験対策として、各テキストを用いて講義形式で学習を進める。また、過去問題の答練と解説を行う。							
到達目標	第二種電気工事士(下期)の筆記試験に合格する。							
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	学習内容が非常に多いので、次の項目については自宅学習を積極的に行うこと。 各種回路の計算。図記号・鑑別・法令で定められた数値等の記憶。過去問題の答練。							
履修に当たっての留意点	電気工事士筆記試験の合格を目指して、学習に積極的に取り組むこと。 欠席しないようにし、授業態度にも十分気を付けること。							

科目名	音響理論	英文名	Acoustic theory				1-3
担当者	関 和正	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 講義
開講期	通年	前期：2時間(回数：15回)	後期：2時間(回数：15回)		授業時数	60時間	
教材 教具	舞台機構調整技能検定3級(2級)試験問題集(兼六館出版)、プリント						
担当者の 実務 経験	1988年～2021年 ラジオ(ラジオたんぱ、FMくらしき)技術職 2000年～現在 テレビ(西日本放送)技術職						
【学修内容】科目のねらい(目的) 学生が、音の周波数を習得することによって音質変化を感じ取り、音質補正の方法と音響機器の操作方法を学び、「舞台機構調整技能士検定」に向けた音響理論を基礎から身につける。 舞台の基礎知識や催物の基礎知識を学び、最終的に舞台機構調整技能士2級学科及び要素試験の取得を目標とする。							
【授業計画】 コマシラバス(前期)				コマシラバス(後期)			
1	1.舞台一般 催物の種類、劇場の種類(3級)	1	1.舞台一般 催物の種類、(2級)	1	1.舞台一般 催物の種類、(2級)	1	1.舞台一般 催物の種類、(2級)
2	舞台の種類、舞台設備の種類、機能及び用途(3級)	2	劇場の種類、(2級)	2	劇場の種類、(2級)	2	劇場の種類、(2級)
3	舞台照明、舞台用語(3級)	3	舞台の種類、(2級)	3	舞台の種類、(2級)	3	舞台の種類、(2級)
4	2.音響機構調整法 音響の基礎知識(3級)	4	舞台設備の種類、機能及び用途(2級)	4	舞台設備の種類、機能及び用途(2級)	4	舞台設備の種類、機能及び用途(2級)
5	音源の基礎知識(3級)	5	舞台照明(2級)	5	舞台照明(2級)	5	舞台照明(2級)
6	音響機器の種類、構造、機能及び用途(3級)	6	舞台用語(2級)	6	舞台用語(2級)	6	舞台用語(2級)
7	ミキシング技術及びデザイン(3級)	7	2.音響機構調整法 音響の基礎知識(2級)	7	2.音響機構調整法 音響の基礎知識(2級)	7	2.音響機構調整法 音響の基礎知識(2級)
8	3.電気 電気工学及び電子工学の基礎理論(3級)	8	音源の基礎知識(2級)	8	音源の基礎知識(2級)	8	音源の基礎知識(2級)
9	電源設備及び電気計器の種類及び使用方法(3級)	9	音響機器の種類、構造、機能及び用途(2級)	9	音響機器の種類、構造、機能及び用途(2級)	9	音響機器の種類、構造、機能及び用途(2級)
10	4.関係法規 関係法令のうち舞台機構調整に関する部分(3級)	10	ミキシング技術及びデザイン(2級)	10	ミキシング技術及びデザイン(2級)	10	ミキシング技術及びデザイン(2級)
11	5.安全衛生 安全衛生に関する詳細な知識(3級)	11	3.電気 電気工学及び電子工学の基礎理論(2級)	11	3.電気 電気工学及び電子工学の基礎理論(2級)	11	3.電気 電気工学及び電子工学の基礎理論(2級)
12	前期 復習(舞台機構調整技能士3級学科試験の復習)	12	電源設備及び電気計器の種類及び使用方法(2級)	12	電源設備及び電気計器の種類及び使用方法(2級)	12	電源設備及び電気計器の種類及び使用方法(2級)
13	三級試験の問題解説 7月実施の三級試験についての解説。	13	4.関係法規 関係法令のうち舞台機構調整に関する部分(2級)	13	4.関係法規 関係法令のうち舞台機構調整に関する部分(2級)	13	4.関係法規 関係法令のうち舞台機構調整に関する部分(2級)
14	機器使用の実践テクニック① 電気音響機器の実際の使用方法などについて学ぶ。	14	5.安全衛生 安全衛生に関する詳細な知識(2級)	14	5.安全衛生 安全衛生に関する詳細な知識(2級)	14	5.安全衛生 安全衛生に関する詳細な知識(2級)
15	機器使用の実践テクニック② 電気音響機器の実際の使用方法などについて学ぶ。	15	前期 復習(舞台機構調整技能士2級学科試験の復習)	15	前期 復習(舞台機構調整技能士2級学科試験の復習)	15	前期 復習(舞台機構調整技能士2級学科試験の復習)
授業方法 (授業の進め方)	前期では、授業の始めは音の周波数のヒアリングを行う。 主な放送・音響機器の役割と選択について説明していく。 電気電子工学の知識を取り入れながら、音響機器の仕組みなどを理解していく。 後期終盤では、過去の仕事現場における失敗事例、トラブル回避事例などを取り入れ、 学生が音響機器トラブルの対処方法を考える。						
到達目標	試聴によって音の周波数を覚え、音の分類ができること。 音響機器を操作して音質補正を行うことができること。 舞台機構に纏わる基本的な知識・技能を養う。						
成績評価の 方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	自宅学習による音の周波数の習得に心掛ける。						
履修に当たって の留意点							

## 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名(映像音響学科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	検定対策		英文名	Measure against official approval				1-4	
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習	
開講期	通年	前期：10時間(回数：15回)	後期：2時間(回数：15回) (+16時間 1月12日～電気技能試験以降木曜3,4限目)				授業時数	192時間	
教材 教具	過去問題ナビゲーション舞台機構調整技能士3・2級(日本舞台音響家協会)、各種過去問題プリント								
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい(目的) 前期：舞台機構調整技能士3級を取得することを目的とする。(作業試験、判断等試験、学科試験) 第二種電気工事士を取得することを目的とする。 後期：舞台機構調整技能士2級を取得するために基礎を身に付ける。(2級は2年次に受験予定)									
<b>【授業計画】</b> コマシラバス(前期)					コマシラバス(後期)				
1	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)導入				1	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)導入			
2	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)手順確認①				2	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認①			
3	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)手順確認②				3	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認②			
4	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)手順の試験				4	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験			
5	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)手順の試験				5	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験			
6	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)時間管理				6	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理			
7	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)時間管理の試験				7	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理の試験			
8	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)総合評価				8	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価			
9	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)総合評価				9	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価			
10	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)トラブルシューティング				10	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)トラブルシューティング			
11	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)全体を通しての練習				11	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)全体を通しての練習			
12	舞台機構調整技能士3級対策(学科・判断・作業)最終確認試験				12	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)最終確認試験			
13	第二種電気工事士対策 導入				13	舞台機構調整技能士2級対策			
14	第二種電気工事士対策 練習問題①				14	舞台機構調整技能士2級対策			
15	第二種電気工事士対策 練習問題②				15	舞台機構調整技能士2級対策			
授業方法 (授業の進め方)	作業、要素、学科をローテーションしながら総合的に学ぶ。 実技を行わない場合は学科及び要素対策を行う。 筆記試験の対策では、繰り返し問題を解いて力を付けていく。								
到達目標	それぞれの検定の取得に向け、的確な知識と技術を習得することを目指す。 前期：舞台機構調整技能士3級取得 後期：舞台機構調整技能士2級の基礎作り(2年生の2月頃に受験予定)								
成績評価の方法と基準	・定期考査試験(実技)：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。								
授業時間以外に必要な学修	過去問題の予習と復習や実技試験における動きの確認、判断等試験に向けて耳を養うトレーニングなど、繰り返し行う。								
履修に当たっての留意点									

# 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（ 映像音響学科 ）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	インターンシップ		英文名	Internship				1-5
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習
開講期	前期	前期： 4時間（回数：15回）	後期：	4時間（回数：15回）	授業時数	120時間		
教材 教具	皮手袋、実習服、筆記用具							

## 【学修内容】 科目のねらい（目的）

インターンシップを通して、職業の理解や必要とされる知識・技術を学び、深める。  
外部機関との連携により、実務的な研修を行う。

## 【授業計画】 コマシラバス（前 期）

1	ホール見学(岡山シンフォニーホール)
2	↓
3	岡山シンフォニーインターン『第76回定期演奏会』準備
4	↓ 岡山シンフォニーインターン『第76回定期演奏会』準備
5	岡山シンフォニーインターン『第76回定期演奏会』撤収
6	↓ 岡山シンフォニーインターン『第76回定期演奏会』撤収
7	岡山シンフォニーインターン『I am a SOLIST』準備
8	↓ 岡山シンフォニーインターン『I am a SOLIST』準備
9	岡山シンフォニーインターン『I am a SOLIST』撤収
10	↓ 岡山シンフォニーインターン『I am a SOLIST』撤収
11	安全講習(フルハーネス講習)
12	↓
13	↓
14	↓
15	前期末試験

## コマシラバス（後 期）

1	岡山シンフォニーインターン『第77回定期演奏会』準備
2	↓ 岡山シンフォニーインターン『第77回定期演奏会』準備
3	岡山シンフォニーインターン『第77回定期演奏会』撤収
4	↓ 岡山シンフォニーインターン『第77回定期演奏会』撤収
5	岡山シンフォニーインターン『親子 de クラシック』準備
6	↓ 岡山シンフォニーインターン『親子 de クラシック』準備
7	岡山シンフォニーインターン『親子 de クラシック』レゼプション
8	↓ 岡山シンフォニーインターン『親子 de クラシック』撤収
9	岡山シンフォニーインターン『第九』準備
10	↓ 岡山シンフォニーインターン『第九』準備
11	岡山シンフォニーインターン『第九』撤収
12	↓ 岡山シンフォニーインターン『第九』撤収
13	ホール見学(総社市民会館)
14	↓
15	↓

授業方法 (授業の進め方)	外部機関との連携により、舞台に関する知識・技術・安全教育の講習や 実地研修などを行う。
到達目標	舞台の裏方の仕事を体験し、また実際に芸術に触れることで、職業意識を高める。 舞台機構調整技能士など資格取得に向け、実際に体験を通して深く学ぶ。
成績評価の 方法と基準	・研修態度 ・出席 ・積極性 ・服装 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。
授業時間以外 に必要な学修	基本的なコミュニケーション能力及びマナー教育
履修に当たっ ての留意点	外部機関との協力によって成り立っている授業であるため、しっかりした意識を持 ち、研修にのぞむ。 日常的に遅刻・欠席（体調不良含む）が多い者は、研修に参加できない場合がある。

## 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（ 映像音響学科 ）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	総合演習 I		英文名	General exercises I				1-6	
担当者	常勤：源、難波、横内 非常勤：野田幸夫		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目 演習	
開講期	通年	前期： 4時間（回数： 15回）	後期：4時間（回数：15回）				授業時数	120時間	
教材 教具	「舞台・テレビジョン照明 基礎編」日本照明家協会、プリント、舞台音響技術概論（兼六館出版）、 「舞台・テレビジョン照明技術者 技能認定試験問題集」、舞台機構調整技能検定3級（2級）試験問題集								
担当者の 実務 経験	野田幸夫：広告代理店、舞台照明								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 一般照明を中心に舞台と照明の基礎を身につける。 音響で使用される各機材の基礎知識から、システム構築の基礎など PA の基本を身につける。 カメラでの撮影で基本となる設置から撮影するまでの基礎を身につける。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）				
1	映像とは				1	業界関連企業による講習			
2	映像用語とその役割				2	業界関連企業による講習			
3	映像実習（撮影）				3	業界関連企業による講習			
4	映像演習（番組収録）				4	業界関連企業による講習			
5	映像演習（配信）				5	照明座学 光とカラーフィルター			
6	照明座学及び演習（舞台機構と照明設備）				6	照明座学 照明操作のシステム			
7	照明座学及び演習（舞台における照明の仕事）				7	照明実習（西川アイプラザ）シーリングの仕込みとシュート			
8	照明座学及び演習（照明機器）				8	照明実習（西川アイプラザ）サスの仕込みとシュート			
9	照明座学及び演習（照明操作のシステム）				9	舞台用語と確認問題の実施			
10	照明座学及び演習（照明に関する用語）				10	PAシステムの基本			
11	照明座学及び演習（舞台・美術に関する用語）				11	マイクフオンの種類について			
12	照明座学及び演習（公演・演出に関する用語）				12	ミキサーの仕組みについて			
13	照明実習（西川アイプラザ）舞台と照明備品の説明				13	エフェクターなど周辺機器について			
14	照明実習（西川アイプラザ）回路取りから点灯まで				14	PAシステムの応用①			
15	照明座学及び演習（前期の復習）				15	PAシステムの応用②			
授業方法 （授業の進め方）	授業では、講義と確認実習を行い、講義を受けた後に実践をすることで確実に知識と技術を身につけていく。								
到達目標	照明の基礎知識が確実に身に付き、舞台や映像の現場で活用することができること。 現場の講師の技術に触れ、幅広い知識や技術を身に付けるとともに感性を養う。								
成績評価の 方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。								
授業時間以外 に必要な学修									
履修に当たっ ての留意点									

## 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（映像音響学科）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	編集 I	英文名	Editing I				1-7
担当者	浅沼 範行		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分 専門科目 実習
開講期	通年	前期： 2時間（回数：15回）	後期 2時間（回数：15回）			授業時数	60 時間
教材 教具	パソコン、After Effect、Premiere、ヘッドフォン、マウス						
担当者の実務 経験	音響、映像制作						
【学修内容】 科目のねらい（目的） 映像業界で使用頻度の高いソフト“After Effect”“Premiere”の技術習得が必須となるため、その活用能力を身につける。 一年次には基礎知識を理解し、簡単な映像作品を制作し基礎技術を習得する							
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）			
1	Premiere AfterEffects とは			1	After Effects 基本エフェクト①		
2	Premiere インターフェース説明			2	After Effects 基本エフェクト②		
3	Premiere 編集			3	After Effects 作品制作		
4	Premiere タイトル作成			4	After Effects 作品制作		
5	Premiere エフェクト			5	After Effects 作品制作		
6	Premiere 作品制作			6	After Effects 作品制作		
7	Premiere 作品制作			7	After Effects 作品制作		
8	Premiere 作品制作			8	After Effects 作品制作		
9	Premiere 作品制作			9	After Effects 作品制作		
10	Premiere 作品制作			10	AfterEffects と Premiere の連携		
11	After Effects インターフェース説明			11	AfterEffects と Premiere の連携		
12	After Effects 基本操作①			12	AfterEffects と Premiere の連携		
13	After Effects 基本操作②			13	AfterEffects と Premiere の連携		
14	After Effects 基本アニメーション①			14	AfterEffects と Premiere の連携		
15	After Effects 基本アニメーション②			15	AfterEffects と Premiere の連携		
授業方法 (授業の進め方)	プロジェクターを使用し、教員の指示に合わせて各自がPCで作業を進めていく。 また確認として課題の作成及び提出を行い、理解度をはかる。 授業時間外は、クラウドサービスなどを利用して質問などを受け付ける。						
到達目標	動画編集、CG アニメーションを理解し、幅広く映像業界で役立つ技術の習得を目標とする。動画編集の基本操作ができるようにする。 作品制作を通して、基本的なCG制作力が習得できる。						
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	自宅学習で授業の復習をして、ソフトウェアの操作が身につくよう心掛ける。						
履修に当たっての留意点	PCはAdobe Premiere Pro と AfterEffects の推奨仕様スペック以上を使用する。						

【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 ( 映像音響学科 )

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	電気応用	英文名	Electrical applications				1-8
担当者	秋山・信平・難波・横内		実務経験の有無	有	選択必修	必須	科目区分 専門科目 実習
開講期	通年	前期：時間(回数：回)	後期：11.2時間(回数：15回) (10月1日～12月21日の8週分)			授業時数	168時間
教材 教具	第二種電気工事士技能試験候補問題の解説						
担当者の実務経験	秋山 俊朗：電設資材卸販売会社(営業)3年5ヶ月、電気工事会社(施工及び施工管理)3年7ヶ月 県立工業高等学校(電気科教諭)33年 信平 幸一：県立工業高等学校(電気科教諭) 難波・横内：実務経験なし						
【学修内容】科目のねらい(目的) 第二種電気工事士の技能試験に合格するために必要な知識と技術の習得。							
【授業計画】 コマシラバス(前期)				コマシラバス(後期)			
1				1	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説		
2				2	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説		
3				3	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説		
4				4	技能試験の基本作業		
5				5	候補問題による電気工事実習		
6				6	候補問題による電気工事実習		
7				7	候補問題による電気工事実習		
8				8	候補問題による電気工事実習		
9				9	候補問題による電気工事実習		
10				10	候補問題による電気工事実習		
11				11	候補問題による電気工事実習		
12				12	1月12日～検定対策(舞台機構調整技能士2級対策)		
13				13			
14				14			
15				15			
16				16			
授業方法 (授業の進め方)	技能試験対策として、候補問題により電気工事実習を行う。						
到達目標	第二種電気工事士の技能試験に合格する。						
成績評価の方法と基準	・実技試験：60%    ・出席率：20%    ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	過去問題の学習、配線図の学習。						
履修に当たっての留意点	国家資格合格を目指して積極的に取り組むよう指導する。						

# 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 ( 映像音響学科 )

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	ビジネス教養		英文名	Business Skills				1-9
担当者	難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	一般科目
開講期	通年	前期：1時間(回数：15回)	後期：1時間(回数：15回)				授業時数	30時間
教材 教具	筆記用具、配布プリント							
<p>【学修内容】科目のねらい(目的)          《前期》文章から情報を読み取る力や文章を構成を考える力を養う。          《後期》前期の授業を基礎とし、就職活動で必要となる力を養う。</p>								
【授業計画】 コマシラバス(前期)				コマシラバス(後期)				
1	ガイダンス+基礎テスト プライベートと社会で求められる文書の違い 伝える相手のその目的			1	履歴書作成			
2	事実と意見を区別する			2	履歴書作成			
3	事実を思い出すトレーニング ブレインストーミングの活用			3	履歴書作成			
4	意見文の構成-事実+意見の基本形			4	一般常識 式の基本公式			
5	意見文を書く			5	一般常識 方程式、不等式			
6	意見文を書く-採点と好事例の共有			6	一般常識 平面図形、空間図形			
7	中間試験			7	一般常識 文章題「濃度・速さ」			
8	手紙文の基本形-基本ルールの確認			8	一般常識 関数とグラフ			
9	手紙文の基本形-形の確認と作成			9	一般常識 場合の数・確率			
10	段落の役割を捉える			10	一般常識 漢字の読み書き			
11	段落の役割を捉える			11	一般常識 類義語・対義語			
12	グラフや表から正しい情報を抜き出す ①			12	一般常識 四字熟語			
13	グラフや表から正しい情報を抜き出す ②			13	一般常識 ことわざ・慣用句・格言・名言			
14	問題演習 1			14	一般常識 構文・熟語			
15	問題演習 2			15	一般常識 基本の英文法			
授業方法 (授業の進め方)	《前期》プリントを使用し文章の読み取りや構成、作成を行う。 《後期》配布プリントの問題を繰り返し解く。							
到達目標	《前期》履歴書、エントリーシート、面接に役立つ自己PRの文章力を身につける。 《後期》就職試験で必要となる一般常識問題に触れ問題の出題形式に慣れる。							
成績評価の方法 と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。 ※定期考査にて59点以下の場合または欠席率が30%を超えた場合は、不認定(D評価)となる。							
授業時間以外 に必要な学修	授業予定にあわせて、練習問題の反復による予習・復習を心掛けること 授業で行った問題の復習を自宅で行い、確実な習得を目指すこと。							
履修に当た るの留意点	授業中に実施する小テストの点、及び出席点を評価に反映させる。							

## 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（映像音響学科）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	ビジネスマナー		英文名	Business manner				1-10	
担当者	野中 晶子		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	一般科目	
開講期	前期	前期：2時間（回数：15回）						授業時数	30時間
教材 教具	プリント、筆記用具								
担当者の実務 経験	司会・マナー講師など								
<p>【学修内容】 科目のねらい（目的）          専門学校で学ぶのは、自分の可能性を試すことができる技術を習得するためである。技術の習得には努力と根気が必要であるがその根底を支えるのがコミュニケーション能力である。          自分の居場所をしっかりと作るためのコミュニケーション能力の必要性を理解することを目的とする。</p>									
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）					
1	4/12	(水) コミュニケーション能力の必要性について・自己紹介		1					
2	4/19	(水) 第一印象についてI		2					
3	4/26	(水) 標準音声について		3					
4	5/10	(水) 挨拶の必要性和効用について		4					
5	5/17	(水) ルールとマナーについて・価値観の違いを考える		5					
6	5/24	(水) 安心感を与える聞き方について		6					
7	5/31	(水) 敬語の心を知る		7					
8	6/7	(水) 人間関係を良くする5か条について		8					
9	6/14	(水) 執務マナーQ&A		9					
10	6/21	(水) 電話対応について		10					
11	6/28	(水) 面接における自己PRについて		11					
12	7/5	(水) こんな時どうする？社会人編		12					
13	7/12	(水) サービス業から学ぶコミュニケーション		13					
14	9/6	(水) マナークイズ		14					
15	9/13	(水) テスト・解説		15					
授業方法 (授業の進め方)	その都度テーマを設けグループワークを用い、自分たちで考え理解し実践に結びつけるようにする。								
到達目標	社会人にとってコミュニケーションがいかに大切か、そしてそのコミュニケーションは自分からの働きかけが必要であることを理解し実践できること。								
成績評価の 方法と基準	・定期考査試験：60%    ・出席率：20%    ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。 ※定期考査にて59点以下の場合または欠席率が30%を超えた場合は、不認定(D評価)となる。								
授業時間以外 に必要な学修	普段の生活の中で、自分からの働きかけを意識し実践する。 言葉づかいは日頃から使い慣れるよう心掛ける。								
履修に当たっ ての留意点	授業態度はチームワークを重んじ、周りの状況を判断できているかどうか、積極的に取り組む姿勢であるかどうかなど、平素の行動を評価するものである。								

## 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（ 映像音響学科 ）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	ポストプロダクション・著作権	英文名	Post-production・copyright				2-1
担当者	源 文彰	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目講義
開講期	通年	前期：4時間（回数：15回）	後期：4時間（回数：15回）			授業時数	120時間
教材 教具	映像音響処理技術者認定試験問題集、ビジネス著作権検定公式テキスト、プリント						
担当者の実務 経験	映像制作会社にて撮影、編集及びディレクター						
【学修内容】科目のねらい（目的） 映像音響業界で必要な映像編集及び著作権について理解する。 映像音響処理技術者認定試験、ビジネス著作権検定の取得を目的とする。							
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）			
1	映像音響処理技術者認定試験対策（技術）	1	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	2	ビジネス著作権検定対策（映画の著作物）	3	ビジネス著作権検定対策（制限）
2	映像音響処理技術者認定試験対策（技術）	2	ビジネス著作権検定対策（保護期間）	4	ビジネス著作権検定対策（譲渡）	5	ビジネス著作権検定対策（著作物の利用）
3	映像音響処理技術者認定試験対策（映像）	3	ビジネス著作権検定対策（著作隣接権）	6	ビジネス著作権検定対策（著作隣接権）	7	ビジネス著作権検定対策（罰則）
4	映像音響処理技術者認定試験対策（映像）	4	ビジネス著作権検定対策（模擬試験）	8	舞台機構調整（ヒヤリング）	9	舞台機構調整（学科）
5	映像音響処理技術者認定試験対策（音響）	5	ビジネス著作権検定対策（著作隣接権）	10	舞台機構調整（ヒヤリング）	11	舞台機構調整（学科）
6	映像音響処理技術者認定試験対策（音響）	6	ビジネス著作権検定対策（著作隣接権）	12	舞台機構調整（学科）	12	舞台機構調整（ヒヤリング）
7	映像音響処理技術者認定試験対策（デジタルメディア）	7	ビジネス著作権検定対策（著作隣接権）	13	舞台機構調整（学科）	13	舞台機構調整（ヒヤリング）
8	映像音響処理技術者認定試験対策（デジタルメディア）	8	ビジネス著作権検定対策（著作隣接権）	14	舞台機構調整（学科）	14	舞台機構調整（ヒヤリング）
9	映像音響処理技術者認定試験対策（著作権）	9	ビジネス著作権検定対策（著作隣接権）	15	舞台機構調整（ヒヤリング）	15	舞台機構調整（ヒヤリング）
10	ビジネス著作権検定対策（目的・定義）						
11	ビジネス著作権検定対策（著作物の種類）						
12	ビジネス著作権検定対策（著作者人格権）						
13	ビジネス著作権検定対策（著作者人格権）						
14	ビジネス著作権検定対策（著作財産権）						
15	ビジネス著作権検定対策（著作財産権）						
授業方法 （授業の進め方）	授業は映像音響処理技術者認定試験問題集（前期）とビジネス著作権検定（後期）を中心に、過去問題等を多く取り入れながら行う。						
到達目標	各検定試験に合格すること。						
成績評価の 方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による予習・復習を心がける。 ・映像音響処理技術者本試験前に直前対策として、試験前日（6/3）に模擬試験をする。						
履修に当たって の留意点							

# 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 ( 映像音響学科 )

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	総合演習Ⅱ		英文名	General exercises II				2-2
担当者	非常勤：大塚仁己（照明） 特別講師（デザイン） 常勤：難波（音響）		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習
開講期	後期	前期：6時間（回数：15回）	後期：	時間（回数：回）			授業時数	90時間
教材 教具	PC、プリント、筆記用具							
担当者の実務 経験	大塚仁己：舞台照明							
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい（目的） 一般照明の基礎とLEDライト・ムービングライトの知識や技術を幅広く身につける。 映像実習では、デザインについて学び、動画作品制作の幅を広げる。 音響システムの基本から、資格取得に必要な知識や技能を深く身につける。								
<b>【授業計画】</b> コマシラバス（前期）					コマシラバス（後期）			
1	照明実習	一般照明とDMXについて	1	/				
2	照明実習	LED照明の仕組みと基本操作	2					
3	照明実習	LED照明を使用した実習	3					
4	照明実習	ムービングライトの仕組みと基本操作	4					
5	照明実習	ムービングライトを使用した実習	5					
6	音響実習	基本的なPAシステムの復習	6					
7	音響実習	AUXの仕組みと基本操作について	7					
8	音響実習	ハウリングと音質調整について	8					
9	音響実習	様々な楽器に対してのマイキングについて	9					
10	音響実習	フォールドバックスピーカーとメインスピーカーの関係性について	10					
11	デザイン	レタリング、ロゴマーク	11					
12	デザイン	フォント、色彩	12					
13	デザイン	動画編集	13					
14	デザイン	動画編集	14					
15	デザイン	試写（プレゼンテーション）	15					
授業方法 （授業の進め方）	座学と実習を行い、現場で即戦力となるように知識・技術を学ぶ。							
到達目標	照明分野ではLEDライト・ムービングライト、音響分野では、デジタルミキサーについて学び、現場により即した知識の習得を目指す。 デザイン分野では、動画編集を行う上で欠かせない、デザインに関する知識を身につけ幅を広げることを目指す。							
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60%    ・出席率：20%    ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	様々な作品や芸術に触れる機会を、なるべく多くもつ。							
履修に当たっての留意点								

# 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 ( 映像音響学科 )

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	卒業制作		英文名	Graduation production				2-3
担当者	難波・源・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習
開講期	後期	前期： 時間 (回数： 回)	後期： 8時間 (回数： 15回)	授業時数	120時間			
教材 教具	パソコン、AfterEffect、Premire、Photoshop、Cubase、プリント							
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい (目的) 作品を制作することで物作りに求められる撮影技術と編集技術を身につけ、編集ソフトを習得する。								
<b>【授業計画】</b> コマシラバス (前 期)				コマシラバス (後 期)				
1	/			1	概要説明、資料配布			
2				2	作品制作 (カット割)			
3				3	作品制作 (撮影スケジュール・ロケハン)			
4				4	作品制作 (撮影)			
5				5	作品制作 (撮影)			
6				6	作品制作 (編集)			
7				7	作品制作 (編集)			
8				8	完成作品の視聴及び修正 (追加撮影及び編集)			
9				9	完成作品の視聴及び修正 (追加撮影及び編集)			
10				10	完成作品の視聴及び修正 (追加撮影及び編集)			
11				11	完成作品の視聴及び修正 (追加撮影及び編集)			
12				12	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
13				13	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
14				14	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
15				15	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
授業方法 (授業の進め方)	卒業制作では、別途授業で習得したソフトの技術を活かして作品の個人制作を行う。冬期休暇に入る前に、各自の作品を視聴し、修正箇所などを指示し、修正箇所を訂正した後、に再提出となる。							
到達目標	授業で学んだソフトを活かして作品を完成させる。卒業制作発表会にて、各自の作品を上映する。							
成績評価の方法と基準	授業態度点、課題点 (作品の評価)、出席点 以上の項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。 ※中間提出、最終提出など決められた期限内に提出できない場合は不認定 (D評価) となる。							
授業時間以外に必要な学修	AfterEffect、Premire、Photoshop、Cubaseに触れる時間を自宅で持ち、自ら理解を深めるよう心掛ける。各自が必要なことを、自らの意思でメモにとる習慣をつける必要がある。							
履修に当たっての留意点	欠席が多い場合は、授業評価に大きな影響が出るため注意すること。							

# 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 ( 映像音響学科 )

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	舞台機構調整Ⅱ		英文名	Stage StructureⅡ				2-4																																																																
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習																																																																
開講期	通年	前期：12時間(回数：15回)		後期：8時間(回数：15回)			授業時数	300時間																																																																
教材 教具	過去問題ナビゲーション舞台機構調整技能士2級(日本舞台音響家協会)、各種過去問題プリント																																																																							
<p><b>【学修内容】</b> 科目のねらい(目的)</p> <p>前期：舞台機構調整技能士2級の取得を目的とし、基礎を身に付ける。また、音響のシステムを理解した上で検定に臨めるように知識を高める。</p> <p>後期：舞台機構調整技能士2級を取得するために実技試験では、時間管理や音量バランスなど、技術的、芸術的な側面からも取得可能な水準を目指す。</p>																																																																								
<p><b>【授業計画】</b> コマシラバス(前期)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:5%;">No.</th> <th style="width:45%;">コマシラバス(前期)</th> <th style="width:5%;">No.</th> <th style="width:45%;">コマシラバス(後期)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)導入</td><td>1</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)導入</td></tr> <tr><td>2</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認①</td><td>2</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認①</td></tr> <tr><td>3</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認②</td><td>3</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認②</td></tr> <tr><td>4</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験</td><td>4</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験</td></tr> <tr><td>5</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験</td><td>5</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験</td></tr> <tr><td>6</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理</td><td>6</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理</td></tr> <tr><td>7</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理の試験</td><td>7</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理の試験</td></tr> <tr><td>8</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価</td><td>8</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価</td></tr> <tr><td>9</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価</td><td>9</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価</td></tr> <tr><td>10</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)トラブルシューティング</td><td>10</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)トラブルシューティング</td></tr> <tr><td>11</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)全体を通しての練習</td><td>11</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)全体を通しての練習</td></tr> <tr><td>12</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)最終確認試験</td><td>12</td><td>舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)最終確認試験</td></tr> <tr><td>13</td><td>舞台機構調整技能士2級対策</td><td>13</td><td>舞台機構調整技能士2級対策</td></tr> <tr><td>14</td><td>舞台機構調整技能士2級対策</td><td>14</td><td>舞台機構調整技能士2級対策</td></tr> <tr><td>15</td><td>舞台機構調整技能士2級対策</td><td>15</td><td>舞台機構調整技能士2級対策</td></tr> </tbody> </table>									No.	コマシラバス(前期)	No.	コマシラバス(後期)	1	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)導入	1	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)導入	2	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認①	2	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認①	3	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認②	3	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認②	4	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験	4	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験	5	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験	5	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験	6	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理	6	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理	7	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理の試験	7	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理の試験	8	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価	8	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価	9	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価	9	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価	10	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)トラブルシューティング	10	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)トラブルシューティング	11	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)全体を通しての練習	11	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)全体を通しての練習	12	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)最終確認試験	12	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)最終確認試験	13	舞台機構調整技能士2級対策	13	舞台機構調整技能士2級対策	14	舞台機構調整技能士2級対策	14	舞台機構調整技能士2級対策	15	舞台機構調整技能士2級対策	15	舞台機構調整技能士2級対策
No.	コマシラバス(前期)	No.	コマシラバス(後期)																																																																					
1	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)導入	1	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)導入																																																																					
2	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認①	2	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認①																																																																					
3	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認②	3	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順確認②																																																																					
4	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験	4	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験																																																																					
5	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験	5	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)手順の試験																																																																					
6	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理	6	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理																																																																					
7	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理の試験	7	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)時間管理の試験																																																																					
8	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価	8	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価																																																																					
9	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価	9	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)総合評価																																																																					
10	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)トラブルシューティング	10	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)トラブルシューティング																																																																					
11	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)全体を通しての練習	11	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)全体を通しての練習																																																																					
12	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)最終確認試験	12	舞台機構調整技能士2級対策(学科・判断・作業)最終確認試験																																																																					
13	舞台機構調整技能士2級対策	13	舞台機構調整技能士2級対策																																																																					
14	舞台機構調整技能士2級対策	14	舞台機構調整技能士2級対策																																																																					
15	舞台機構調整技能士2級対策	15	舞台機構調整技能士2級対策																																																																					
授業方法 (授業の進め方)	<p>作業、要素、学科をローテーションしながら総合的に学ぶ。                      実技を行わない場合は学科及び要素対策を行う。                      筆記試験の対策では、繰り返し問題を解いて力を付けていく。</p>																																																																							
到達目標	<p>それぞれの検定の取得に向け、的確な知識と技術を習得することを目指す。                      前期：舞台機構調整技能士2級の基礎をしっかりと学び知識を得る。                      後期：舞台機構調整技能士2級資格取得に向けて技術力を高める。</p>																																																																							
成績評価の方法と基準	<p>・定期考査試験(実技)：60%    ・出席率：20%    ・授業に取り組む姿勢：20%                      以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。</p>																																																																							
授業時間以外に必要な学修	<p>過去問題の予習と復習や実技試験における動きの確認、判断等試験に向けて耳を養うトレーニングなど、繰り返し行う。</p>																																																																							
履修に当たっての留意点																																																																								

# 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 ( 映像音響学科 )

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	DTM		英文名	Desk Top Music				2-5	
担当者	渡辺 悟		実務経験の有無	有	選択必修	必修 (後期:選択)	科目区分	専門科目 実習	
開講期	通年	前期: 4時間(回数:15回)		後期: 4時間(回数:15回)			授業時数	90時間	
教材 教具	パソコン、ソフト“Cubase”、ヘッドフォン、マウス、プリント								
担当者の実務経験	音響及びホール管理								
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい (目的) DTM ソフトを通じてレコーディングの理解を深めると共に、ハードに触れる機会があまりない学生にとってヴァーチャル空間でのミキシング技術、エフェクター類の理解、また打ち込みによる楽器への理解を深めることを目的とする。									
<b>【授業計画】</b> コマシラバス (前 期)					コマシラバス (後 期)				
1	DTMの概要及びソフトのインストール				1	歌が前に出るミックスダウン①19トラックの素材をインストール。エフェクターの基礎知識			
2	初級ミックスダウン①16トラックの素材をミックスする				2	歌が前に出るミックスダウン②19トラックの素材をインストール。エフェクターの基礎知識			
3	初級ミックスダウン②フェーダーバランスをとる。方向性を練る				3	歌が前に出るミックスダウン③音量のラフバランス。ボーカルトラックのサウンドを制作			
4	初級ミックスダウン③好きなグループで鳴るようにコンプをかける				4	歌が前に出るミックスダウン④音量のラフバランス。ボーカルトラックのサウンドを制作			
5	初級ミックスダウン④パン・リバーブ・ディレイをかけ、トータルコンプで仕上げる				5	歌が前に出るミックスダウン⑤ベース・ドラムトラックのサウンドを制作			
6	初級MIDIデータの打ち込み。MIDIとは何かを知る				6	歌が前に出るミックスダウン⑥ベース・ドラムトラックのサウンドを制作			
7	実際にデータを打ち込んでみる				7	歌が前に出るミックスダウン⑦ギター・コーラストラックのサウンドを制作			
8	楽譜の読み方、音楽の基礎知識 楽譜通りにMIDIデータを打ち込む				8	歌が前に出るミックスダウン⑧ギター・コーラストラックのサウンドを制作			
9	打ち込んだ曲のミックスダウン				9	歌が前に出るミックスダウン⑨オートメーションでボーカルの表現力を強調する			
10	打ち込んだ曲のミックスダウン				10	歌が前に出るミックスダウン⑩オートメーションでボーカルの表現力を強調する			
11	別の教材でMIDIデータを打ち込む①				11	新たな楽譜でMIDIデータを打ち込む①			
12	別の教材でMIDIデータを打ち込む②				12	新たな楽譜でMIDIデータを打ち込む②			
13	打ち込んだ曲に合わせてレコーディング①				13	新たな楽譜でMIDIデータを打ち込む③			
14	打ち込んだ曲に合わせてレコーディング②				14	新たな楽譜でMIDIデータを打ち込む④			
15	レコーディングした曲をミックスダウンする				15	新たな楽譜でMIDIデータを打ち込む⑤			
授業方法 (授業の進め方)	パソコンを使い実際に打ち込み・レコーディング・ミックスダウンを進めていく。学生にはプロジェクターとプリントにより解説をする。								
到達目標	簡易的なレコーディング、編集、マスターリング、MIDIの理解が出来るようになる。								
成績評価の方法と基準	・定期考査試験:60% ・出席率:20% ・授業に取り組む姿勢:20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。								
授業時間以外に必要な学修	様々なジャンルの曲を聞いて、どの様にミックスをされているのかを自分なりに考えることがミキシング上達の必須項目となるため、自主的に音楽に触れる機会を持つこと。								
履修に当たっての留意点									

## 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（ 映像音響学科 ）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	フォトショップ	英文名	Photoshop				2-6
担当者	平石 明香	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習
開講期	通年	前期：2時間（回数：15回）	後期：2時間（回数：15回）	授業時数	60時間		
教材 教具	ソフト“Photoshop”、PC、基礎からしっかり学べる Photoshop（テキスト）						
担当者の実務 経験	ソフトウェア開発会社でSE、PG。独立後ソフトウェア開発やWebサイトの作成、講師など。						
【学修内容】科目のねらい（目的） 画像編集ソフト”Photoshop”の基礎操作を身に付け、写真の編集やデザイン作成に挑戦し、ブライダル関係や広告関連業での就職活動に役立つ力を養う。							
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）			
1	オリエンテーション	1	フィルター				
2	基本操作、ウィンドウとパネル操作	2	フィルター				
3	選択範囲の作成と操作	3	色とデザインの基本				
4	選択範囲の作成と操作	4	色とデザインの基本				
5	選択範囲の作成と操作	5	DM スケッチ				
6	確認テスト+レイヤー操作	6	DM 制作				
7	レイヤー操作	7	DM 制作				
8	レイヤー操作	8	DM 制作				
9	レイヤー操作レイヤー操作	9	DM 制作、制作作品の発表と投票				
10	テキスト、シェイプレイヤー	10	作品紹介カード作成				
11	テキスト、シェイプレイヤー	11	作品紹介カード作成				
12	確認テスト+カラーの設定、描画、レタッチ	12	作品紹介カード作成				
13	カラーの設定、描画、レタッチ	13	作品紹介カード作成				
14	カラーの設定、描画、レタッチ	14	作品紹介カード作成と提出				
15	前期復習	15	前期後期復習				
授業方法 (授業の進め方)	データで配布された素材を元に、各自がPC上で実際に作業を行い進めていく。						
到達目標	CG ソフトの基本操作を学び、写真や画像の編集ができるようになることを目標とする。卒業制作のDMと作品紹介カードのデザインをする。						
成績評価の 方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	授業以外での作品制作が必要な場合もある。						
履修に当たって の留意点							

## 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（映像音響学科）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	編集Ⅱ		英文名	Editing II				2-7
担当者	浅沼 範行		実務経験の有無	有	選択必修	必修 (後期：選択)	科目区分	専門科目 実習
開講期	通年	前期：4時間(回数：15回) ※通常授業2時間+集中講義(9/25~9/29)	後期：4時間(回数：15回)	授業時数	120時間			
教材 教具	パソコン、AfterEffects、Premiere、ヘッドフォン、マウス、安定したネット環境							
担当者の実務 経験	音響、映像制作							
【学修内容】科目のねらい(目的) 将来映像業界で活用できる能力を身に付ける。 二年次には、一年次に学んだ技術と知識を応用し、さらに発展した技術を使いオリジナルの映像作品を制作する。								
【授業計画】 コマシラバス(前期)				コマシラバス(後期)				
1	AfterEffects 昨年度の復習			1	AfterEffects エフェクトを使う			
2	AfterEffects 2Dアニメーション			2	AfterEffects エフェクトを使う			
3	AfterEffects 2Dアニメーション			3	AfterEffects エフェクトを使う			
4	AfterEffects 3Dアニメーション			4	AfterEffects エフェクトを使う			
5	AfterEffects 3Dアニメーション			5	AfterEffects エフェクトを使う			
6	AfterEffects 3Dアニメーション			6	AfterEffects エフェクトを使う			
7	AfterEffects 3Dアニメーション			7	AfterEffects PremiereとPremiereとの連携			
8	AfterEffects 3Dアニメーション			8	AfterEffects PremiereとPremiereとの連携			
9	AfterEffects 3Dアニメーション			9	AfterEffects PremiereとPremiereとの連携			
10	AfterEffects 3Dアニメーション			10	AfterEffects PremiereとPremiereとの連携			
11	AfterEffects 3Dアニメーション			11	AfterEffects PremiereとPremiereとの連携			
12	AfterEffects 3Dアニメーション			12	AfterEffects PremiereとPremiereとの連携			
13	AfterEffects 3Dアニメーション			13	AfterEffects PremiereとPremiereとの連携			
14	AfterEffects Photoshopと連携			14	AfterEffects PremiereとPremiereとの連携			
15	AfterEffects Photoshopと連携			15	AfterEffects PremiereとPremiereとの連携(調整)			
授業方法 (授業の進め方)	オンライン会議システムZoomほかを使用し、教員の指示に合わせて各自がPCで作業を進めていく。また確認として、課題制作及び提出により理解度をはかる。クラウドサービスなどを使って質問などに答えていく。							
到達目標	動画編集、3Dアニメーションを理解し、幅広く映像業界で役立つ技術の習得を目標とする。繰り返し作品制作を行うことでCG制作に慣れ確実に使用方法を習得する。表現したい技術を探求して、オリジナル作品を作成する。							
成績評価の方法 と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外 に必要な学修	自宅学習で授業の復習をして、ソフトウェアの操作が身につくよう心掛ける。							
履修に当た るの留意点								

## 【シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（ 映像音響学科 ）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	一般教養	英文名	Liberal Arts				2-8
担当者	難波・源・横内	実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	一般科目
開講期	通年	前期：1 時間（回数：15 回）	後期：1 時間（回数：15 回）	授業時数	30 時間		
教材 教具	プリント						
【学修内容】 科目のねらい（目的） 就職試験で出題頻度の高い、SPI と一般常識問題に繰り返し触れることで、試験問題に慣れることを目的とする。							
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）			
1	適性検査対策①			1	適性検査対策③		
2	適性検査対策②			2	適性検査対策④		
3	教養漢字対策			3	教養漢字対策		
4	教養数学対策			4	教養数学対策		
5	教養英語対策			5	教養英語対策		
6	教養一般常識対策①			6	教養一般常識対策④		
7	教養一般常識対策②			7	教養一般常識対策⑤		
8	教養一般常識対策③			8	教養一般常識対策⑥		
9	SPI 対策（数学）①			9	SPI 対策（数学）⑥		
10	SPI 対策（非言語）②			10	SPI 対策（非言語）⑦		
11	SPI 対策（非言語）③			11	SPI 対策（非言語）⑧		
12	SPI 対策（言語）④			12	SPI 対策（言語）⑨		
13	SPI 対策（言語）⑤			13	SPI 対策（言語）⑩		
14	前期末試験対策①			14	学年末試験対策①		
15	前期末試験対策②			15	学年末試験対策②		
16	前期末試験対策③			16	学年末試験対策③		
授業方法 （授業の進め方）	配布プリントの問題を繰り返し解き、定期的に確認試験を実施する。						
到達目標	就職試験で必要となるSPI と一般常識問題に触れ問題の出題形式に慣れる。 また、国語、数学、英語、時事問題と幅広く触れ、就職試験で求められる基準に達する力を養う。						
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。 ※定期考査にて59点以下の場合または欠席率が30%を超えた場合は、不認定（D評価）となる。						
授業時間以外に必要な学修	授業で行った問題の復習を自宅で行い、確実な習得を目指すこと。						
履修に当たっての留意点	授業中に実施する小テストの点、及び出席点を評価に反映させる。						